

SANYANG MOTOR CO.,LTD.

NO.3 Chung Hua Road, Hukou, Hsinchu, Taiwan R.O.C.

T +886-3-598-1911

F +886-3-597-1981

W <http://www.sym-global.com/>



Owner's Manual

LW12W1-EU / LW25W1-EU / LW30W1-EU

JOYMAX **Z**





1.目次

1. 目次	1
2. お乗りになる前に	3
3. 安全に乗るには	3
4. 運転	4
5. 純正スペアパーツを使用してください	4
6. 部品や機能の配置	5
コンビネーションメーター	7
イグニッション・スイッチ	12
右ハンドルバースイッチ	14
左ハンドルバースイッチ	14
ウインドスクリーン	15
燃料タンクキャップ	15
フロントコンパートメント	16
ラゲッジボックス	17
サイドスタンド	17
メインスタンド	18
パッセンジャー・フットレスト	18
7. エンジンの始動方法	18
エンジンを始動するには	18
エンジンを停止するには	19
8. スクーターの乗り方	19
慣らし運転	19
スロットルコントロール	19
走りはじめ	19
ブレーキング	20
アンチロックブレーキシステム	20
駐車	21
9. メンテナンスと調整	21
メンテナンスの重要性	21
定期的な点検	21
オイルレベルの点検/オイル交換	22
トランスミッションオイルの交換	23
燃料の点検	23
クーラントレベルの点検 / 補充	24



クーラントの交換.....	24
ブレーキシステムの点検.....	25
スロットルの遊びの点検.....	26
タイヤ/タイヤ空気圧の点検.....	26
ステアリング/フロントフォークの点検.....	26
ヒューズの点検.....	27
バッテリーの点検.....	27
スパークプラグの点検.....	28
エアクリナー/Vベルトエアクリナーの点検.....	28
ヘッドライトの調整.....	29
リアショックアブソーバーの調整.....	29
全体の潤滑.....	29
車両データレコーダー.....	29
10. スクーターの扱い方.....	30
洗車.....	30
11. トラブルシューティング.....	31
エンジンが始動できない場合の診断.....	31
オーバーヒート.....	31
EFI 警告灯の点灯.....	31
ABS 警告灯の点灯.....	31
12. 定期メンテナンススケジュール.....	32
13. 仕様諸元.....	33
14. ラベルの場所.....	35



2. お乗りになる前に

このマニュアルでは、安全なライディング、簡単な点検方法など、このスクーターの正しい使用方法について説明しています。より快適で安全な乗り心地のために、このマニュアルを注意深く読んでください。

お客様のためにも、ご購入の販売店に SYM オペレーションマニュアルについて、特に以下の内容をよく読むようご依頼ください。

- スクーターの正しい使用方法。
- 出荷前点検およびメンテナンス。

ご購入いただきありがとうございます

お客様の車両の性能を最大限に引き出すためには、定期的な点検とメンテナンスを完全に行う必要があります。最初の 300 キロメートル、まずは慣らしをしていただいたのち、初回点検のためにスクーターをお買い求めの販売店にお持ちください。その後 1000 キロごとに定期的にスクーターを点検されるよう、お勧めします。

- スクーターの仕様、部品、構造などが変更され、お客様のマニュアルやカタログ上の写真、図などと異なる場合は、実際の車両の仕様と構造が優先されます。

3. 安全に乗るには

車両を安全に運転するには、リラックスし、スクーターライディングにあった適切な服を着て、交通規制を守り、急がず、常に慎重に運転することが非常に重要です。

通常、ほとんどの人は、新しく購入したばかりのころは非常に慎重に乗っていただけるものですが、車両に親しみ、慣れてくるとやや不注意な、無謀な運転をして事故を起こす可能性が高まる傾向にあります。

🔔 お忘れなく・・・

- 車両に乗るときは、乗車用ヘルメットを着用し、きちんとあごひも（チンベルト）を締めてください。
- 袖口が開いていたり緩くデザインされているような服は、風の影響を受けやすく、場合によっては袖口がハンドルバーに絡まって、安全な車両の操作に影響を与える可能性があります。
- 従い、よりタイトな袖の服を着て頂いた方が安全です。
- 乗車時には必ず両手でハンドルを持ち、片手乗りはしないでください。
- 制限速度を守りましょう。
- 適切な、ローヒールの靴を着用しましょう。
- スケジュールに従った定期的な点検とメンテナンスを実施しましょう。

⚠️ 危険【WARNING】!!

- パッセンジャーを乗せる場合は、排気管で火傷しないよう、注意してください。確実にフットベグに足をのせること。
- 走行後は、排気管は非常に高温になります。点検やメンテナンスを行う際の火傷には十分ご注意ください。
- 走行後は、排気管は非常に高温になります。他の人や周辺のものが排気管によって火傷したり火事になることを避けるためにも、車両を駐車する位置をよく選んで停めてください。

⚠️ 注意【CAUTION】:

- スクーターの改造は、その構造や性能に影響を与え、エンジンの動作不良や排気騒音を引き起こし、スクーターの耐用年数を短くします。
また、改造は場合によっては違法であり、出荷時の設計や仕様に準拠していません。
改造されたスクーターは保証の対象となりません。従いまして、スクーターを改造せずにお使いください。
- タイヤやリムの変更は、安全性に大きく影響し、重傷や死亡事故を引き起こす可能性があります。



4. 運転

腕、手のひら、腰部、足の指など、身体の関連部分を、必要なときにいつでも素早く反応できるように、最も快適な姿勢でリラックスさせた姿勢で乗りましょう。

- ライダーの姿勢は乗り物の安全に大きく影響します。常に、体の中心がサドル（シート）の中心にあるように着座してください。もし重心がシートの後方に寄りすぎると、前輪の荷重が軽減し、ステアリングが横揺れしやすくなる原因になりかねません。こうした状態は、車両の操作には非常に危険な状態です。
- カーブを曲がる時、ライダーがカーブに合わせて体を内向させることで、より簡単にコーナリングが楽しめます。ライダーは、体と車両がバラバラになっていると不安定に感じてしまうものです。
- スクーターは、でこぼこな、平準化されていない、舗装されていない道路で制御することは困難です。なるべく事前に道路状況を知り、徐行しながら、肩の力をうまく使ってハンドルを適切に制御しましょう。
- 乗り降りの安全性とステアリングの操作に影響を与えないよう、不必要にフロント寄りに、あるいはフラットフロアーに余計な荷物を積まないようにしましょう。

⚠ 注意【CAUTION】:

- ライダーのハンドル操作における感覚は、荷重（積載物）の有無によってわずかに異なります。
- 過負荷/過積載は、ハンドルの揺れ等に通じ、ライディングの安全性に影響を与える可能性があります。したがって、ご自身の安全のためにも、過負荷/過積載でお乗りにならないでください。
- スクーターを過負荷/過積載にすると、スクーターが不安定になり、操縦が難しくなるだけでなく、タイヤやリムに深刻な損傷を引き起こす可能性もあります。また、重心が変わり、操作が困難になって怪我や死亡事故を引き起こす可能性があります。許可された最大負荷/積載量を超えないようにしましょう。

⚠ 注意【CAUTION】:

- 車両の外装とエンジン間に布などの可燃物を設置すると、火災を引き起こす恐れがあります。
- 損傷を避けるために、積載用のエリア以外に荷物等を積まないこと。

お勧めです：

お使いのスクーターの性能を最大化し、またその寿命を延ばすには

最初の 1 か月、または最初の 1000km 走行までは、エンジンや各部コンポーネントの慣らし期間です。

この間は急速な加速を避け、速度を 60km/h 以下に保ちましょう。

5. 純正部品をお使いください

- このスクーターは、その設計された能力を最大限に発揮させるために、厳しい品質管理の下で製造された高品質な部品で構成されています。「SYM 純正部品」は、こうした構成部品と同様の基準で設計され、提供されます。いかなる部品も、設計基準を満たした上に、厳しい品質管理を受けない限り、市場に提供されることはありません。従いまして、「SYM 純正部品」は、SYM 正規販売網店からのみお買い求めください。もし純正部品ではない、格安な粗悪品をお求めになった場合、商品の品質は保証いたしかねますし、耐久性も期待できません。当然これはまたスクーターの性能の定価や予期せぬトラブルにつながる恐れもあります。
- 常にあなたのスクーターを安心かつ安全にお乗りいただくためにも、また未永くお使いいただくためにも、**SYM 純正部品**をご使用ください。

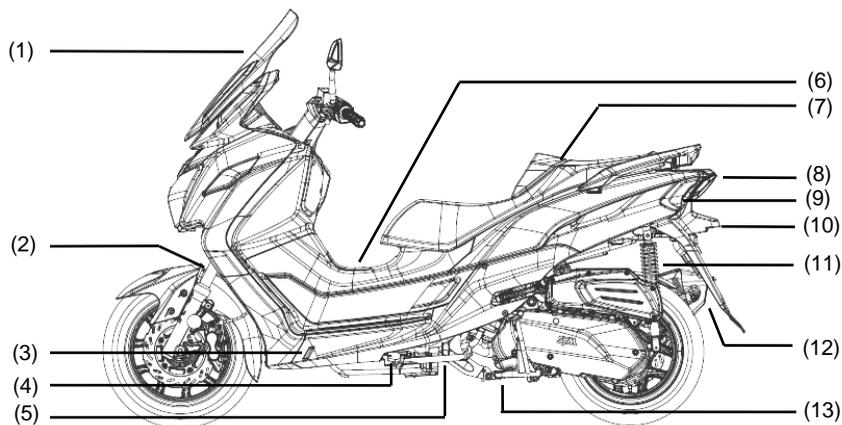


SANYANG
GENUINE PARTS





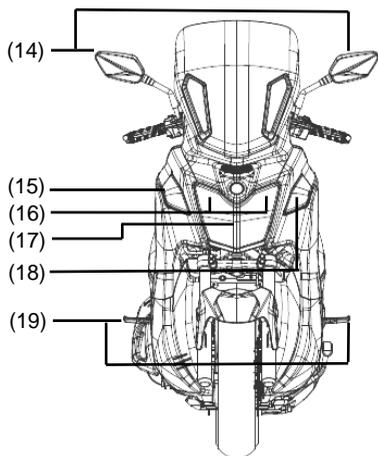
6. 各部の位置、名称と操作



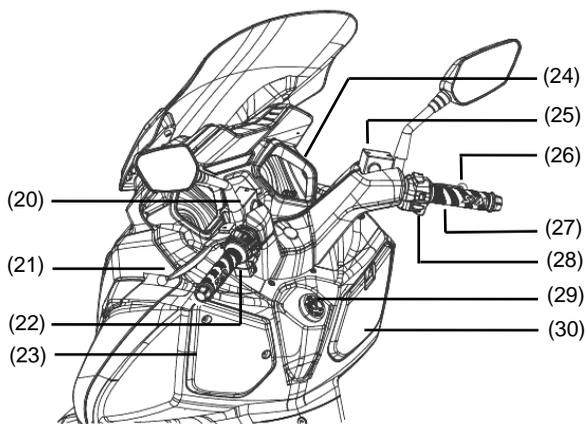
- (1). ウィンドスクリーン
- (2). フロントフォーク
- (3). 冷却水点検窓
- (4). サイドスタンドスイッチ
- (5). サイドスタンド

- (6). 燃料油キャップ
- (7). シート/ラゲージボックス
- (8). テール/ブレーキ灯
- (9). リア方向指示器
- (10). ナンバー灯

- (11). リアショックアブソーバー
- (12). マフラー
- (13). メインスタンド
- (14). 後写鏡
- (15). フロント方向指示器



- (16). ポジション灯
- (17). 前照灯
- (18). フロント方向指示器
- (19). 後部座席用フットレスト
- (20). リアブレーキ液リザーバー



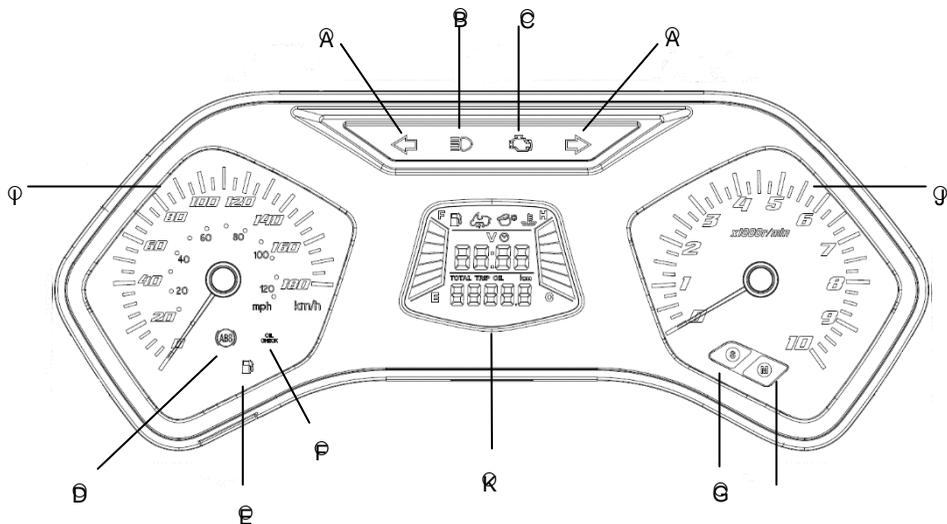
- (21). リアブレーキレバー
- (22). 左側ハンドルバースイッチ
- (23). バッテリー収納
- (24). ダッシュボード (メーター)
- (25). フロントブレーキ液リザーバー

- (26). フロントブレーキレバー
- (27). スロットルグリップ (アクセル)
- (28). 右側ハンドルバースイッチ
- (29). イグニッションスイッチ
- (30). 前部小物入れ

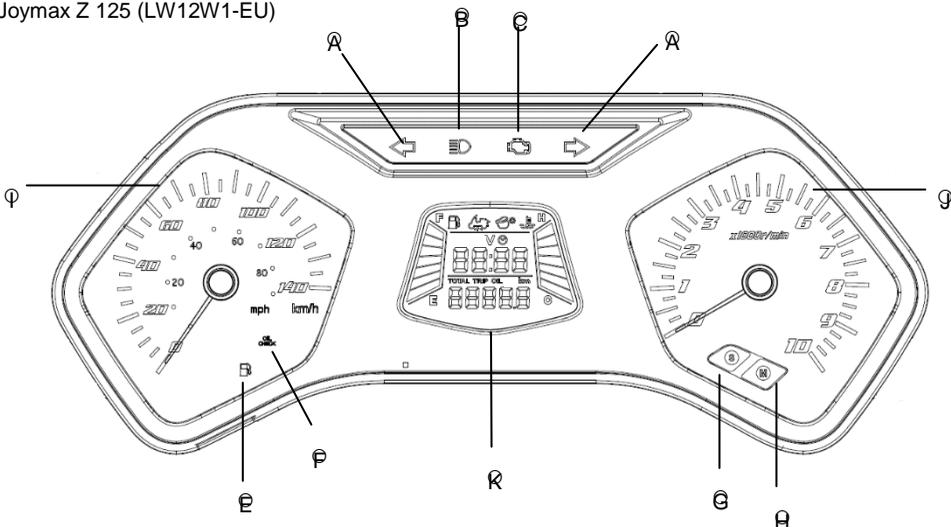


コンビネーションメーター

Joymax Z 250 (LW25W1-EU) & Joymax Z 300 (LW30W1-EU)



Joymax Z 125 (LW12W1-EU)



注記【NOTE】:

- インストルメントパネル、ヘッドライト、ボディカバーなどのプラスチック部品を、ガソリンなどの溶剤で拭かないこと。溶剤を用いてプラスチック部品を清掃することは、これらの部品を損傷する恐れがあります。



警告【WARNING】:

スクーターの乗車中は、メーターのボタン操作を行わないこと。



A ウィンカー表示灯【Turn Signal Indicator Light】

ターンシグナルスイッチ（方向指示器）を右または左にスライドさせると、対応する表示灯が点滅します。

B ハイビーム表示灯【High Beam Indicator Light】

ヘッドライトがハイビーム（上向き）の時に点灯します。

C EFI 警告灯【EFI Warning Indicator Light】

イグニッションキーを「ON」に切り替えると、EFI 警告灯が点灯します。エンジン始動後、警告灯は消灯し、EFI システムが正常に作動していることを示します。万が一 EFI システムに異常がある場合、警告灯は常時点灯状態になります。この場合、お買い上げの販売店、若しくは SYM 正規販売店にご連絡ください。なお、サイドスタンドを出している状態では、EFI 警告灯は点灯しません(16 ページ)。

D ABS 警告灯【ABS Indicator Light】

ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯は、イグニッションキーが ON になると点灯し、車両が走り出すと消灯します。ABS が正常に機能していれば、走行中は警告灯は消灯したままになります。システムに異常がある場合に警告灯が点灯しますが、仮に ABS が機能しなくても通常のブレーキは正常に機能するように設計されています。

E 燃料レベル警告灯【Low Fuel Indicator Light】

燃料レベルが 7 段階のレベルゲージの 1（最小）になると、点灯します（9 ページ）。

F オイル点検警告灯【Oil Check Indicator Light】

オイル点検警告灯は、前回のオイル点検からの経過距離を示します。この警告灯は、リセットから 1000 km毎に点灯するように作られています(9 ページ)。警告灯が点灯したら、ディップスティック、若しくは点検窓からオイルレベルを点検してください(21-22 ページ)。オイルメーターモードの時に S ボタンを 2 回押すことで、警告灯はリセットできます（9 ページ）。

G S ボタン【S Button】

多機能メーターのトリップメーター、及びオイルマイルージメーターをリセットするには、このボタンを押してください。また、このボタンを押して、多機能メーターのバッテリー電圧とクロックを切り替えられます(9 ページ)。

H M ボタン【M Button】

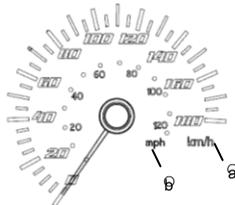
多機能メーター(ページ 9)のメーターモードを切り替えるために、このボタンを使います。

I 速度計【Speedometer】

速度計（スピードメーター）は、現在の車速を示します。

外円側の数字は ㉑ km/h を表します。

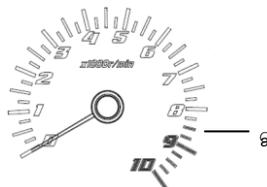
内円側の数字は ㉒ mph を表します。



J 回転計【Tachometer】

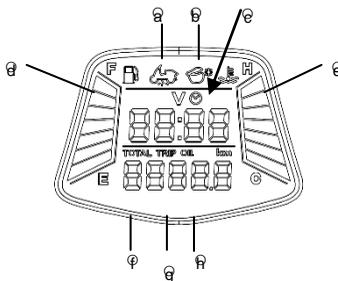
回転計（タコメーター）は、毎分のエンジン速度回転数(rpm)を示します。

エンジンはレッドゾーン以上まで回さないでください ㉓ 。



K 多機能メーター

- Ⓐ サイドスタンド警告灯
- Ⓑ ラゲージボックス庫内灯点灯表示灯
- Ⓒ 多機能表示盤 (ディスプレイ)
 - 時計
 - バッテリー電圧計
- Ⓓ 燃料残量計
- Ⓔ 冷却水温計
- Ⓕ 走行距離計 (オドメーター)
- Ⓖ トリップメーター
- Ⓗ オイル点検距離計



Ⓐ サイドスタンド警告灯【Side Stand Down Indicator】

この警告灯は、サイドスタンド(16 ページ)が出されたときに点灯します。サイドスタンドが出ている場合、エンジンを始動できません。エンジン始動中にサイドスタンドが出されると、エンジンは停止します。サイドスタンドを格納すると、この警告灯は消灯します。

Ⓑ ラゲージボックス庫内灯点灯表示灯【Luggage Box Light Indicator】

この表示灯は、ラゲージボックスの庫内灯が点灯しているとき、同時に点灯します。庫内灯が消えているときは、表示灯も消灯します。

Ⓒ 多機能表示盤【Multifunction Display】

イグニッションキーをオンにすると、バッテリー電圧が約 10 秒間表示されます。

次に、以下の表示モードは M ボタンを押すことで次に進めていくことが可能です。

時計 → バッテリー電圧 → 時計、

S ボタンを押すごとに、以下の表示モードを切り替え、進めることが可能です。

走行距離計 → トリップメーター → オイル点検距離計 → 走行距離計

時計

この時計は 24 時間モードのみで表示されます。

時刻の設定には、以下の手順を実行してください。

- イグニッションキーをオンにして、時計が表示されるまで約 10 秒待ちます。
- M ボタンを 2 秒以上押すと、「時」表示が点滅し始めます。
S ボタンを押して「時」部分を調整します。



- 「時」部分を調整できたら、M ボタンを再度押してください。「分」部分の表示が点滅し始めます。
S ボタンを押して、「分」部分の 10 の位を調整します。



- 10 の位の数字が定まったら、再度 M ボタンを押してください。1 の位の表示が点滅を開始します。
S ボタンを押して、1 の位の数字を調整し、現在時の設定を完成させましょう。



- 時刻設定が完成したら、M ボタンを押して、設定モードを終了させてください。

注:

- バッテリーが切れると、時計は 12:00 にリセットされます。バッテリーが再び接続されると、動作し始めます。
- 時刻設定中に 30 秒程度操作しない時間が続くと、自動的に設定モードを終了し、元に戻ります。
- 時刻設定中にイグニッションキーを OFF に回すと、時刻設定モードが自動的に終了し、元の設定に戻ります。
- 時計機能は、イグニッションキーが OFF であっても、バックアップ機能により正常に作動し続けます。

バッテリー電圧計

バッテリー電圧計には、現在のバッテリー電圧が表示されます。イグニッションキーをオンにすると、約 10 秒間表示されます。
表示範囲:8.0V~18.0V。



⚠ 注意 [CAUTION]:

- イグニッションキーを ON にした時に表示されるバッテリー電圧が 10.0V 以下、または 16.0V を超える、エンジンが始動しにくい、あるいは始動不能な場合は、お買い求めの販売店、若しくは SYM 正規販売店にご相談ください。
- エンジンの作動中にバッテリー電圧が 10.0V 以下、または 16.0V を超える場合は、お買い求めの販売店、あるいは SYM 正規販売店に点検をご依頼ください。

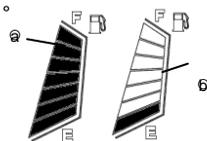
㊦ 燃料残量計

この電子式（デジタル）燃料残量計は、燃料の残量を 7 段階の LED のゲージで表示します。

もし燃料が満タンの場合、7 個の LED すべてが点灯します㊦。

燃料残量警告灯は、残量計の LED が最後の一つになると点灯します㊧。

速やかに給油してください。



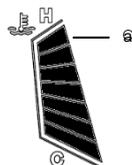
㊧ 冷却水温計

この電子式（デジタル）冷却水温計は、冷却水の温度を 7 段階の LED のゲージで表示します。

冷却水の温度は、エンジンの負荷や、天候などによって影響を受けます。もし走行中に最大値

（7 個すべての LED が点灯）㊦ に達したら、速やかにエンジンを停止し、安全な場所に駐車して、ラジエーターファンの作動と、リザーバータンク内のクーラントの残量を点検してください。

* P24 参照



注記 [NOTE]:

- この車両には、水温警告灯（高水温警告）は装備されていません。
- 冷却水の温度が高すぎた場合、冷却水温計のゲージは点滅しません。
- エンジンが動いている間は、冷却水温度計の表示に気を付けておきましょう。

㊦ 走行距離計（オドメーター）

この走行距離計は、これまでのこの車両の総走行距離を km で示しています。

また、この走行距離計は、リセットできません。



注記【NOTE】:

- オドメーターの数字は、多機能メーター内に保持され、バッテリーが切られても維持されます。
- オドメーターの示す走行距離が 99999 になると、続く走行距離は 0 に戻り、走行距離計が再び働き始めます。
- この走行距離計はキロメートル単位でしか表示しません。

㊦ **トリップメーター**

このトリップメーターは、最後にゼロにリセットされてからの距離をキロメートル単位で示します。

^{TRIP}
^{km}
8000

- トリップメーターモードでは、素早く S ボタンを 2 回押すことで、トリップメーターをリセットできます。
- 表示範囲: 0~999.9 キロ。

注記【NOTE】:

- このトリップメーターは、キロメートル単位でしか表示できません。
- トリップメーターの示す走行距離が 999.9 になると、続く走行距離は 0.0 に戻り、継続して計測します。

㊧ **オイル点検距離計**

オイル点検距離計は、現在のオイルがどれくらいの距離を走ったのかを示します。オイル点検警告灯(8ページ)は、オイル点検距離計に従い、1000 km毎に点灯します。オイル点検警告灯が点灯したら、オイルレベル点検窓、またはディップスティック(22 ページ)でオイルレベルを点検してください。

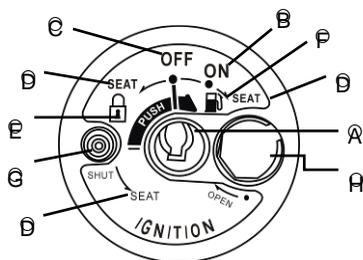
^{OL}
^{km}
10000

- オイル点検距離モードでは、素早く S ボタンを 2 回押すことで、オイル点検距離計をリセットできます。
- 表示範囲: 0~9999.9 キロ。

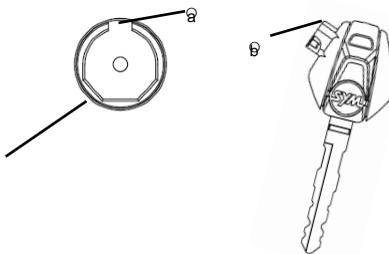
注記【NOTE】:

- オイル点検距離計がリセットされない場合、オイル点検警告灯はリセットされるまで点灯し続けます。
- オイル点検距離計がリセットされない場合、前回のリセットからの走行距離が最大制限値である 9999.9km を超えた場合は、オイル点検距離計は 0 km に戻り、改めて距離を加算し始めます。この場合、オイル点検警告灯は、リセットされるまで点灯し続けます。
- オイル点検距離計は、キロメートル単位でしか表示できません。

イグニッションスイッチ



イグニッションスイッチ



イグニッションキー

Ⓐ イグニッション・キー・スロット

イグニッションキーを挿入する鍵穴です。イグニッションキーを挿入して、イグニッションスイッチを操作します。

Ⓑ “ON” 位置 ON

エンジンはこの位置で始動できます。この位置ではイグニッションキーを引き抜くことはできません。すべての電装品は使用可能になり、ヘッドライトは自動点灯します。また、USB アクセサリコンセントも使用可能です。

Ⓒ “OFF” 位置 OFF

エンジンはこの位置で停止させることができます。すべての電装品への電源供給も遮断されます。

Ⓓ “SEAT” 位置 SEAT

シートはこのいずれかの位置でアンロック（開錠）することができます。

- [ON] 位置でイグニッションキーを時計回りに回すと、イグニッションキーは自動的に“オン”に戻ります。
- [OFF] 位置でイグニッションキーを反時計回りに回すと、イグニッションキーは自動的に“オン”に戻ります。
- 「LOCK」位置でイグニッションキーを反時計回りに回すと、イグニッションキーは自動的に「LOCK」に戻ります。

Ⓔ “Lock” 位置

ハンドルバーはこの位置でロック（固定）することができます。

- イグニッションキーを「OFF」の位置に回して、エンジンを停止します。
- ハンドルバーを左にいっぱい回します。
- イグニッションキーを反時計回りに押しまわして、ハンドルバーをロックします。
- イグニッションキーはこの位置で抜き去ることが可能です。
- ハンドルバーのロックを解除するには、イグニッションキーを時計回りに回して“OFF”の位置にします。

Ⓕ “給油” 位置

給油口はこの位置で開くことができます。

- イグニッションキーを“OFF”の位置にします。
- イグニッションキーを時計回りに押しまわして、給油口（燃料油キャップ）を開けます。
- イグニッションキーは自動的に「Off」の位置に戻ります。

Ⓖ 磁気シャッター

この磁気シャッターボタンは、イグニッションキーの挿入口を閉じるために用意されています。

- [OFF] の位置でイグニッションキーを取り外し、このボタンを押せば、キーの挿入口が閉じられます。
- [LOCK] の位置でイグニッションキーを取り外し、このボタンを押しても、キーの挿入口を閉じられます。

H シャッターオープナー

シャッターオープナーを用いて、イグニッションキーの挿入口を開閉できます。

- イグニッションキーのシャッターオープナー ⑥ をシャッタースロット ⑤ に合わせ、シャッターキーを時計回りに回して、イグニッションキー挿入口のシャッターを開きます。

注記【NOTE】:

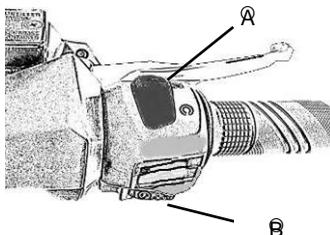
- イグニッションスイッチの操作性を損ねる恐れがあるため、イグニッションキーには不要なキーホルダーやアクセサリ等をつけないよう注意してください。

注意【CAUTION】:

- 車両が動いている時は、イグニッションキーを絶対に操作しないでください。イグニッションスイッチを「OFF」の位置に切り替えると、すべての電装品への電力は遮断され、危険な事故などにつながる恐れがあります。イグニッションスイッチは、車両が完全に停止している状態でのみ、OFF にしてください。
- エンジン停止後、イグニッションスイッチが長時間「ON」の位置に留まると、バッテリー電圧が低下し、エンジンの始動能力に影響を与える可能性があります。
- 車両を離れる前に、必ずステアリングハンドルをロックし、イグニッションキーを取り外しましょう。車両から離れる際に、イグニッションキーを挿入したままにしないよう注意してください。



右ハンドルバースイッチ



Ⓐ キルスイッチ

キルスイッチは、通常は ○ の位置のままにしておいてください。この位置で車両のエンジンが始動可能になります。緊急時にエンジンを停止する必要がある場合、⊗ の位置に切り替えてください。

注記【NOTE】:

- キルスイッチでエンジンを停止することは可能ですが、キルスイッチは電源を遮断するスイッチではありません。従い、エンジンを停止させたいときは、通常はイグニッションキーを OFF にしてください。

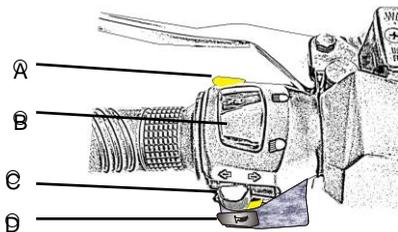
Ⓑ スターターボタン

スターターボタンは、エンジンが動いていないときに、セルフスターターを作動させるボタンです。エンジンの始動には、イグニッションスイッチを ON にし、前または後のブレーキレバーを引きながら、スターターボタンを押してください。

注記【NOTE】:

- この車両は常時点灯システムを備えています。すなわち、イグニッションキーが ON になると、ヘッドライト（下向き＝ロービーム）、ポジション灯、尾灯、ナンバー灯が自動点灯します。これらの灯火類を個別に消灯することはできません。
- イグニッションスイッチを ON にした後は、長時間エンジンをかけないまま車両を放置しないでください。

左ハンドルバースイッチ



Ⓐ パッシングスイッチ

パッシングスイッチ **PASS** を押すと、メーター内のハイビーム（上向き）インジケーターが点灯し、ヘッドライトがハイビームになり、先行する車両に、追い抜きをしようとしていることを知らせることができます。このボタンから手を離すと同時に、ハイビームは終了し、通常のヘッドライト（ロービーム）点灯に戻ります。



B デイマースイッチ（上下切り替えスイッチ）

スイッチでハイビームとロービーム（ヘッドライトの上向きと下向き）を選択できます。ヘッドライトが上向き（ハイビーム）の時 、メーター内のハイビームインジケータライトが点灯します(8 ページ)。

-  ハイビーム
-  ロービーム

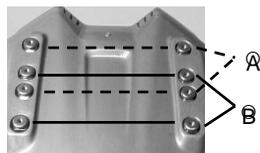
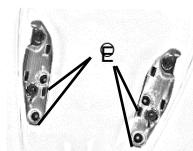
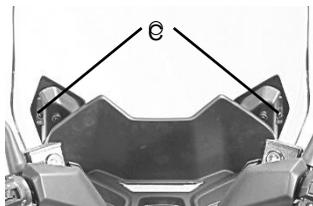
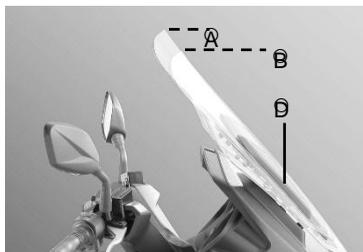
C ターンシグナルスイッチ（ウィンカースイッチ）

ターンシグナルスイッチは、左  または右に入れると、 対応するウィンカー（ターンシグナル）が点滅します。点滅を停止するには、スイッチの中央を押し込みます。

D ホーン（警音器）ボタン

イグニッションスイッチが ON になっているときにホーンボタンを押すと、ホーン（警音器）が鳴ります。

ウィンドスクリーン（風防）



この車両には、2 段階に調整可能なウィンドスクリーン（風防）が装備されています。

高い位置:  A

低い位置:  B

- 2 本のねじ  C を外して、2 つのウィンドスクリーンガーニッシュ  D を取り外します。
- 4 本のフランジボルトを取り外し、お好みの位置（A または B）に合わせ、ウィンドスクリーンを取り付けてください。
- 左右のガーニッシュをもとの通りに取り付けたら、完了です。

燃料タンクキャップ



- イグニッションキーを「燃料油キャップ」の位置(12 ページ)に回して、給油口の外蓋  A を外します。
- 燃料油キャップ  B を開くには、ツマミを持って、反時計回りに回してください。
- 燃料油キャップを確実なところに置か、保持し、なくさないこと。



- 燃料を満たします。
- 燃料油キャップを時計回りに回し、ロックされるまで締め込みます。
- 外蓋（フューエルリッド）を閉じてください。これで給油は完了です。

注意 [CAUTION]:

- ガソリンは極めて可燃性が高く、特定の条件下では爆発する恐れもあります。給油中は喫煙したり、イグニッションスイッチを ON にしたりしないこと。給油の際には周辺が十分に換気されている条件であること、可燃物が周囲にないことをよく確認してください。
- ガソリンを給油口いっぱいまで入れないでください。気温によってはガソリンが膨張し、吹きこぼれる恐れがあります。
- 給油後、燃料油キャップが確実に締められていることを確認してください。
- 万が一ガソリンを車両にこぼした場合は、すぐに拭き取ってください。

燃料の種類について

- 燃料タイプ： 無鉛ガソリンのみ。
- オクタン価： オクタン価(RON)92 以上。
- 混合ガソリン： 欧州基準のエタノール 5%混合「E5」に適合。
- 燃料タンク容量： 12 L。



注意 [CAUTION]:

- エンジンへのダメージを避けるためにも、無鉛ガソリンのみをご使用ください。有鉛ガソリンを使用すると、触媒を傷める恐れがあります。
- 推奨オクタン価以上のガソリンを使用してください。低オクタン値のガソリンは、エンジン性能の低下につながります。
- 高濃度アルコールを含む燃料は絶対に使用しないでください。
- 汚染されたガソリンは使用しないでください。

フロントコンパートメント（小物入れ）



フロントコンパートメント（前部小物入れ・グローブボックス）は、イグニッションスイッチの右側に位置しています。USB 電源コンセント ⑥ はフロントコンパートメント内にあります。ボタン ④ を押し下げ、コンパートメントのカバー ③ を開けて、USB コンセントにアクセスしてください。このコンセントでは、エンジンが駆動中に低消費電力デバイスを充電できます。



注記[NOTE]:

- エンジンが作動していない時は、USB 電源コンセントを使用しないでください。
- ヒューズが飛ばないように、取り扱いデバイスは 10W 以下にとどめるようにしてください。
- 車両から離れる時には必ずデバイスを USB コンセントから取り外し、水などによる短絡等为了避免するためにも、キャップを確実に取り付けてください。

ラゲジボックス（メットインスペース）



ラゲジボックス（メットインスペース）はシートの下にあります。ご利用には、シートを開いて（12 ページ参照）ください。ヘルメットなら 2 個、収納することが可能です。ただし、サイズやデザインによって一部のヘルメットは収納できないことがあります。このラゲジボックスには、シートサポート（ダンパー）**B** と、ラゲジボックス灯 **C** が装備されています。座席が開くと、ラゲジボックス灯が点灯します。

- 最大負荷（重量制限）：10 キロ。

注記[NOTE]:

- 最大負荷を超える重量物等はいれしないでください。
- ラゲジボックスはエンジンの熱を受けやすいところに位置しています。貴重品や食料品、あるいは可燃性の物質、さらには熱に弱いと思われるものを入れることは避けてください。

サイドスタンド



この車両には、サイドスタンド **A** が装着されています。サイドスタンドはスクーターを駐車するために使用します。サイドスタンドで立っているスクーターには決して乗らないこと。

また、この車両にはサイドスタンドスイッチ **B** がついています。サイドスタンドが出ている状態のときには、メーター上のサイドス

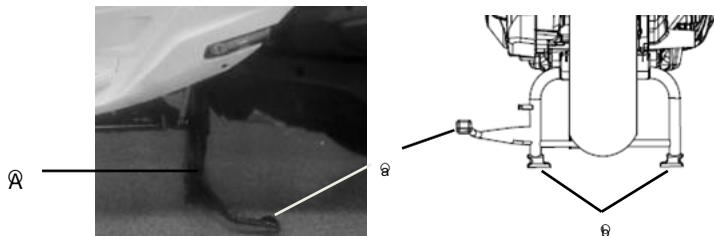


タンドダウンインジケータが点灯します(ページ 9)。この時、エンジンを始動することはできません。また、走行中にサイドスタンドを出すと、エンジンは停止します。

注記【NOTE】:

- サイドスタンドを使用する場合は、ハンドルバーを完全に左に回します。

メインスタンド



この車両にはメインスタンド ① が装備されています。車両を正立させる場合には、必ずメインスタンドをお使いください。

- 車両の左側に立ち、メインスタンドを降ろします。
- 左側のハンドルグリップと、リアキャリアの左側を保持してください。
- スタンドの先端 ② を右足で押さえ、メインスタンドの接地点 2 カ所 ③ が地表に確実に接触するようにしてください。
- 車体を引き上げ、後ろに引き戻すことで、メインスタンドが立ち上がります。
- ハンドルバーを完全に左に切り、停車姿勢を完成させてください。

パッセンジャー（後部席用）フットレスト



この車両には、2 つのパッセンジャー（後部座席用）のフットレスト ① が備わっています。フットレストを押し込むと、外に出ますので、固定して使用してください。**エラー！ブックマークが定義されていません。**

注記【NOTE】:

- 二人乗りしないときには、フットレストは折りたんでおきましょう。



7. エンジンの始動方法

エンジンを始動するには

- キルスイッチが確実に ○ の位置にあることを確認してください。
- サイドスタンドが格納されていることを確認してください。
- イグニッションキーを「ON」位置に回します。
- リア、またはフロントブレーキレバーを握り、スロットル（アクセル）は完全に閉じたままで、スターターボタンを押し、エンジンを始動します。

注意[CAUTION]:

- エンジンを始動する前に、オイルと燃料量を確認してください。
- 予期しない動きを防ぐためにも、エンジンを始動する前にブレーキレバーをきちんと握ってください。
- エンジンを始動したら、速やかにスターターボタンから指を離してください。
- もしスターターを 3~5 秒ほど動かしてもエンジンが始動しなかった場合、スロットルをわずかに開けた状態で再度お試しください。エンジンの始動性が上がることもあります。
- スターターに障害等が起きないように、スターターボタンを 10 秒以上押し続けしないでください。
- スターターボタンによる始動を数度試してもエンジンがかからない場合、イグニッションスイッチを一度 OFF に戻し、10 秒ほど開けてから、再度お試しください。
- エンジンが動いている間は、決してスタータースイッチを押さないでください。
- 排気ガスは有毒です。エンジンの始動は必ず良く換気された場所で行ってください。

エンジンを停止するには

- スロットルを完全に閉じます。
- イグニッションスイッチを OFF にします。
- しっかりとした、水平な路面上に車両を置き、サイドスタンド、若しくはメインスタンドを使って駐車させてください。

8. スクーターの乗り方

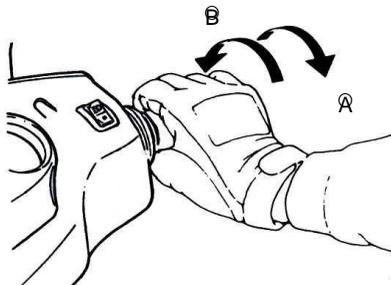
慣らし運転

最初の 1000 km の走行中は、以下のガイドラインに従って慣らし運転を行い、お使いの車両の信頼性を上げ、十分な性能が確実に発揮できるようにしましょう。

- 全開で発信させたり、急なアクセルワークは避けましょう。
- 急な制動（ハード・ブレーキング）は避けてください。
- 慎重な運転を心がけましょう。



スロットルコントロール



加速するには、ゆっくりとスロットルグリップ（アクセル）を A 方向に回します（開きます）。
減速するには、スロットルを B 方向に閉じます。

走りはじめ

- サイドスタンド、もしくはメインスタンドがキチンと格納されていることを確認します。
- 周囲をよく見渡し、安全を確認しましょう。
- スロットルをスムーズに開けて、走りはじめましょう。

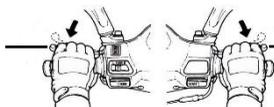
注意【CAUTION】:

- 特に車両に不慣れなうちは、スロットルを慎重に開けてください。
- 新しいタイヤは滑りやすく、コントロールしにくい傾向にあります。慣らし運転を行うことで、自然に通常のグリップ力を得られるようになります。

ブレーキング（制動）

- スロットルを完全に閉じれば、エンジンブレーキが利き、車両を自然に減速させることができます。
- 停止するためには、必ず前後両方のブレーキを同時に使用してください。一般的には、フロントブレーキはリアブレーキよりも若干強めにかけた方が有効です。
- ブレーキをロックさせないこと。タイヤを滑らせる原因になります。カーブを曲がる際には、十分に減速してからカーブに進入すること。
- お使いの車両には ABS または CBS が装備されていますが、カーブを曲がる途中でブレーキを使用することは、タイヤのグリップを損ね、車輪が滑る原因となる恐れがあります。カーブでは強くブレーキをかけるようなことはせず、ごく限定した入力で制御するようにしましょう。
- 急ブレーキを行う際には、可能な限り強くブレーキを掛けられるよう、集中しましょう。

リアホイール用



フロントホイール用



アンチロックブレーキシステム(ABS) (Joymax Z 250/300のみ)

ABS は、直線を走行中に強くブレーキを行った際に、ホイールがロックするのを防ぐように設計されています。ABS は自動的にブレーキ力を調節することができます。ABS によって車両は断続的にグリップ力と制動力を与えられることになり、これはホイールのロックを防ぎ、安定したステアリング操作を可能にしたまま、車両を安全に停止させることが可能になります。ブレーキの操作そのものは一般的なスクーターと違いはありません。右側のレバーがフロントホイールをコントロールし、左側のレバーは同時にリアホイールをコントロールしています。

ABS は、ホイールのロックを防ぐことで安全に車両を停止させる仕組みを持ちますが、次の特性もご理解ください。

- ABS は、不安定な道路状況やライディングにおける判断ミス、ブレーキの不適切な使用を補うことはできません。ライダーは、あくまでも ABS が装着されていない車両と同様に、注意深くブレーキを行う必要があります。
- ABS は制動距離を短くするには設計されていません。ぬれた路面や不整地、または下り坂などでは、ABS が作動することによって制動距離が長くなる可能性があります。こうした状況では特に注意する必要があります。
- ABS は、直立時のブレーキ時のホイールロックを防ぐのに役立ちますが、コーナリング中のブレーキによって引き起こされるようなホイールスリップを制御することはできません。カーブを曲がるときは、前後のブレーキをごくごくわずかに使って車体を制御するにとどめるか、ブレーキは全く使用しないようにしましょう。まずは、カーブに入る前に十分に減速することが大切です。

ABS 警告灯

コンビネーションメーター内の ABS 警告灯(8 ページ)は、ABS が作動中になると点滅します。

注意【CAUTION】:

ABS は、あらゆる危険からライダーを守るお守りではありませんし、安全運転の代わりに果たしてくれるものでもありません。ABS 機構の動作原理や、その限界についてはよく理解しておきましょう。天候、路面、交通状況に適した速度と方法で乗るのはライダーの責任です。

駐車

駐車位置に近づいたら:

- あらかじめターンシグナル (ウィンカー) を出し、スムーズにスロットルを閉じて速度を落としましょう。
- スロットルを完全に閉じ、ブレーキレバーをスムーズに握り、車両を停止させましょう。

駐車したい場所に到達した後:

- ターンシグナル (ウィンカー) スイッチをリセットし、イグニッションキーを OFF に戻して、エンジンを停止させます。
- 車両を駐車するには、17 ページと 18 ページの「サイドスタンド」及び「メインスタンド」の項を参照してください。
- イグニッションスイッチを OFF にして、ハンドルバーをロックします。

注意【CAUTION】:

- 乗車中はイグニッションキーを OFF にしないでください。
- サイドスタンドは、主に不均一な地面に駐車する場合に使用し、また長時間使用しないこと。ハンドルバーを左に完全に切ること、車体の安定性を高めることができます。
- 排気管からの熱による火傷などを避けるために、歩行者や子供が車体に触れないような位置に駐車しましょう。

9. メンテナンスと調整

メンテナンスの重要性



この章で説明するメンテナンスと調整は、お使いの車両を良好な状態に維持し、また環境規制等にも確実に適合した状態でお使いいただくためにも、以下の「乗車前点検」および「定期メンテナンススケジュール」に従い、確実に実施していただく必要があります。車両のメンテナンス（保守）は、所有者の責任です。車両にお乗りになる前に、必ず「乗車前点検」を実行し、加えてスケジュールに則った点検を行ってください。とりわけ、初回点検は極めて重要であり、必ず実施してください。

⚠ 警告(WARNING):

- オーナースマニュアルに記載された点検項目、メンテナンス方法、スケジュールに確実に従ってください。

SYM では、作業上で発生しうるあらゆる可能性や危険などについて警告を発することは出来かねます。結局、それぞれの作業を実施するか否かを決定できるのはご自身だけなのです。もしご自身の経験が不足していたり、作業を実施する能力が不足しているとお考えの場合、お買い求めの販売店、あるいは SYM 正規販売店に作業を依頼されることを強くお勧めします。

乗車前点検

項目	注意点
エンジンオイル	正しいオイルレベルであること。
燃料	十分な燃料があり、また漏れなどが無いこと。
ブレーキ	フロントブレーキとリアブレーキの双方が十分に機能すること。
タイヤ	バルブキャップが正しく取り付けられていること。パンクしていないこと。
ステアリングハンドル	異常な振動がないこと。ハンドルを左右に切る動作に異常や重さなどが無いこと。
クーラント（冷却液）	正しいクーラント（冷却液）レベルに収まっていること。
電装部品	正しく作動すること。
主要部品の締結	正しく締結されている（正しいトルクで締め付けられている）こと。

オイルレベル点検/オイル交換

オイルレベルの点検:

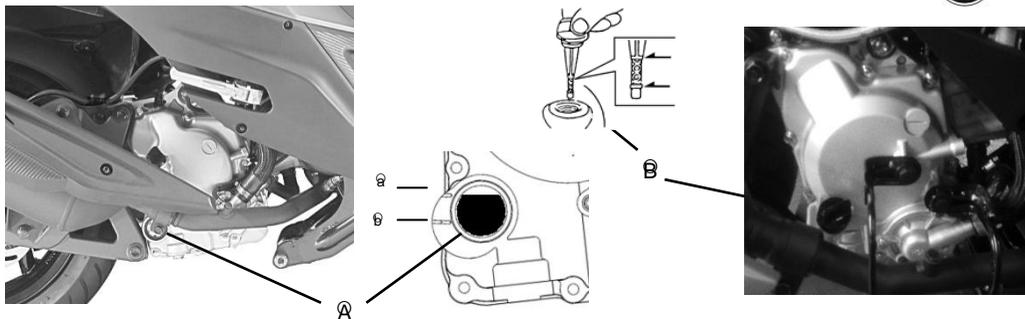
- エンジンが冷えている場合は、アイドリング状態で数分間、エンジンを暖気してください。
- エンジンを停止し、エンジンオイルが落ち着くように数分待ちます。
- 車体を直立させ、オイルレベル点検窓 ㊤ から、エンジンオイルの量が適正か点検します。または、ディップスティック ㊦ を取り外し、きれいにオイルをぬぐい、ディップスティックを根元にあたるまで挿入（但しねじ込まないこと）して、オイルレベルが上限 ㊧ 又は下限 ㊨ の間にあるかどうかを点検します。
- オイルレベルが下限にある場合は、同じオイルを上限に達するまで補充してください。
- 1,000km 毎にオイルレベルを点検してください。

⚠ 警告(WARNING):

- オイルがエンジン全体にいきわたる前にエンジンの回転数を上昇させると、焼き付きなどを起こす可能性があります。

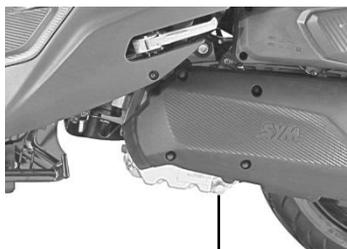
注記(NOTE):

- オイルレベルは、水平面に直立で停車させた状態で測定し、エンジン停止直後には測定しないこと。



オイル交換:

- オイル交換は、お買い求めの販売店、若しくはSYM 正規販売店で実施してください。
- 推奨指定されている**"MOTUL"** は、この車両のために設計され推奨されているオイルです。
- 必ず SAE 10W-30 または 10W-40、API SG と同等もしくはそれ以上のオイルを選択すること。SYM では、不適切なオイルによるエンジンのダメージには一切責任を負いかねます。
- オイル交換は新車から 1000 km 後にまず行いましょう。以降は 5,000km ごとにオイルを交換してください。
- クランクケースからのブローバイを合わせてドレンホースで確認し、必要に応じて排出、清掃してください。
- 総オイル容量:1.4L(Joymax Z 250/300)、1.0L(Joymax Z 125)。
- 定期点検時：1.2L(Joymax Z 250 /300)、0.8L(Joymax Z 125)。



オイルドレンボルト



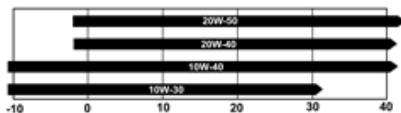
オイルフィルターキャップ



クランクケース・ブローバイ

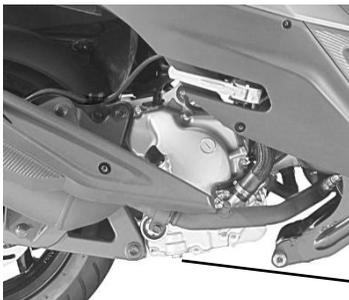
SAE 10W30 のオイル粘度であれば、ほとんどの気象条件でご使用いただけますが、寒暖のいずれかが非常に厳しい環境下でご使用になる場合は、気候条件に応じてオイルの粘度を変更する必要があります。

Recommended Oil



オイルフィルタースクリーンの清掃:

オイルフィルタースクリーン ㉔ は、お買い求めの販売店、若しくはSYM 正規販売店で清掃して下さい。



Ⓐ

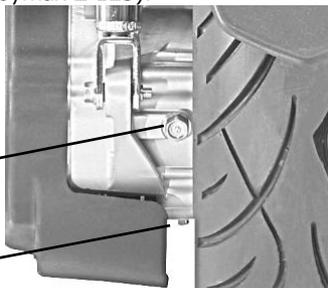
トランスミッションオイルの交換

トランスミッションオイルは、お買い求めの販売店、若しくは SYM 正規販売店で交換してください。

- グレード:SAE 10W30 / 10W40、API SG(Joymax Z 250 / 300)
SAE 85W140、API GL-4、SAE 85W90 \leq 0 $^{\circ}$ C (Joymax Z 125)
SYM は不適切なオイルを使用したことに起因するいかなるダメージについても責任を負いかねます。
- 総容量:180 cc (Joymax Z 250/300)、110cc (Joymax Z 125)
- 定期点検時:160 cc (Joymax Z 250 / 300)、100cc (Joymax Z 125)。



トランスミッション
オイル注入ボルト



トランスミッション
オイルドレンボルト

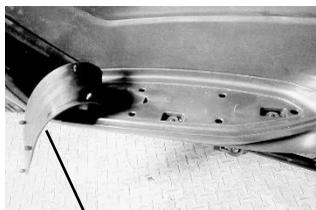
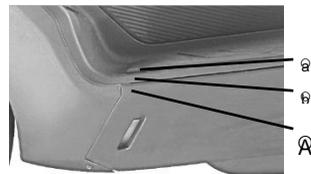
燃料の点検

燃料（ガソリン）が十分に用意されていることを確認してください。

- イグニッションスイッチを ON にし、燃料ゲージを確認します。燃料残量警告灯が点灯(7 ページ)した場合、燃料の残量は約 2.5 リットル(予備燃料)になります。速やかにタンクを燃料で満たしてください。
- 燃料タンクにキャップの縁まで燃料を入れないでください。
- 燃料油キャップがしっかりと閉じられていることを確認すること。
- 推奨燃料:無鉛 92(RON)オクタン価以上のガソリン

クーラント（冷却液）レベル点検/補充

- 車体を安定した水平面に垂直に立ててください。クーラント（冷却液）点検窓④は、フロアパネル左側にあります。
- クーラントレベルは、"FULL" ⑤ と"LOW" ⑥の間にあること。
- クーラントレベルが下限にある場合、上限まで補充してください。
- 補充には、まず左のフロアマット③を剥がします。
- 点検蓋⑦を平たいスクレードライバーなどを用いて外します⑧。
- リザーバタンクのキャップを開け、クーラントを補充しましょう。
- 逆の手順で元の位置に戻します。



③



⑦

⑧



⑨

この車体には、工場出荷時に高品質のクーラント（冷却液）が充填されています。冷却液は、50%の濃度のエチレングリコール製不凍液です。

クーラント（冷却液）の交換

冷却液の交換は、お買い求めの販売店、若しくは SYM 正規販売店に依頼してください。

冷却液を補充、若しくは交換する場合には、JIS K2234 LLC 規格を満たす製品をご使用ください。規格を満たした商品であれば、エチレングリコール製不凍液を 50%の濃度で混合されており、使用時に希釈等の必要がありません。また、規格を満たした商品であれば、冷却システムを保護する腐食防止剤も含まれています。

- ラジエータークーラント容量:1.4 リットル。

不凍液の濃度については下表を参考としてください。

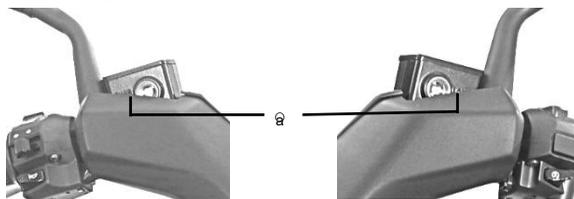
不凍液濃度	温度	注意
20%	-8	十分な不凍液の性能を確保するために、工場で充填されている冷却液は、50%の濃度で混合希釈されたもの。
30%	-15	
40%	-24	
50%	-36	

ブレーキシステムの点検

この車両には、前後ともにディスクブレーキが装備されています。万が一ブレーキのご使用時に異常を感じた場合は、お買い求めの販売店、若しくは SYM 正規販売店に依頼し、点検を受けてください。

フロント/リアブレーキ フルードレベル点検:

- ハンドルバーを正位置に固定します。
- 前/後部ブレーキ・リザーバータンクのブレーキ液のレベルを点検してください。
- それぞれのブレーキ・リザーバータンクを水平に保持した時、点検窓のブレーキ液レベルは「LOWER」ラインの上になければなりません ㉔。
- ブレーキ液レベルが「LOWER」ライン以下の場合、お買い求めの販売店もしくは SYM 正規販売店に連絡し、フルードレベルを調整するようご依頼ください。
- 推奨ブレーキ液:DOT3 または DOT4。

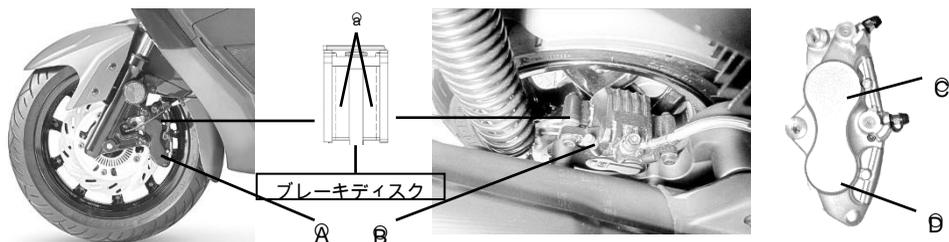


⚠ 警告【WARNING】:

- DOT3 または DOT4 のブレーキフルードのみを使用してください。
- ブレーキ液は空気から水分を吸収しやすく、吸収された水分はブレーキの能力を大幅に低下させます。
- ブレーキ液漏れが見つかった場合は、直ちにお買い求めの販売店、若しくは SYM 正規販売店にご連絡を。

フロント/リアブレーキパッド 点検:

- ブレーキキャリパーを点検し、フロント ㉔ 及びリア ㉕ のブレーキパッドの残量を点検します。
- いずれかのパッドのライニングの厚みが最小限度ラインに達した場合 ㉔ は、ブレーキパッドをお買い求めの販売店、若しくは SYM 正規販売店に依頼し、交換してください。



- この車両には、異形対抗式 4 ピストンブレーキキャリパー ㉔ がフロントに装着されています。このため、パッド上部 ㉔ と下部 ㉕ とでは、摩耗の具合が均等ではない可能性があります。

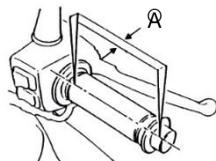
注記【NOTE】:

- ブレーキパッド交換時は、必ずセットで交換してください。
- 新品のパッドは滑りやすく、十分な性能を発揮するまで慣らしが必要になります。



スロットルの遊び量の点検

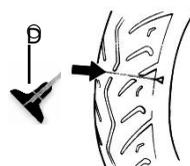
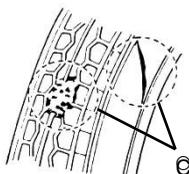
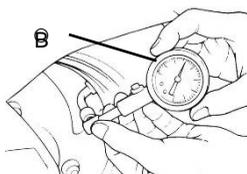
- スロットルグリップが全開から全閉まで、スムーズに動くことを点検してください。
- スロットルグリップを回すときに、5°～ 10°[Ⓐ]程度の遊びがあるように調整してください。
- スロットルの遊びの点検、調整はお買い求めの販売店、若しくはSYM 正規販売店にて行ってください。



タイヤ/タイヤ空気圧の点検

- エアバルブキャップ [Ⓐ] を取り外します。
- タイヤ空気圧計 [Ⓑ] でタイヤの空気圧をこまめに測定し、推奨空気圧にタイヤをセットしましょう。
- タイヤの亀裂や切り傷を目視で点検し [Ⓒ]、必要に応じてタイヤを交換します。
- トレッドゲージでトレッドの深さを測定 [Ⓓ] し、最小限度にまで摩耗したタイヤは、交換してください。
- 標準タイヤの推奨タイヤ空気圧: MAXXIS MA-PRO.

フロント: 2.0 kgf/cm² 28 psi (120/70-14 55P)
リア: 2.5 kgf/cm² 35 psi (140/60-13 63P)

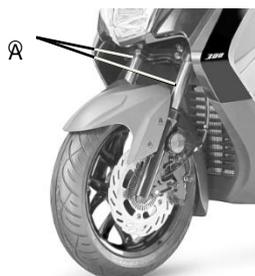


警告[WARNING]:

- タイヤトレッド（溝）の深さが不十分な場合、車両の制御が困難になることがあります。
- タイヤトレッドの限度については、お住まいの地域（国）の規定に従ってください。日本は 0.8 mm です。
- 新品のタイヤは滑りやすく、操作しにくい可能性があるため十分注意してください。

ステアリング/フロントフォークの点検

- フロントフォーク [Ⓐ] が痛んでいないか、あるいはオイル漏れがないかを目視点検してください。
- ステアリングハンドルを手で押し下げてフロントフォークを圧縮し、フォークがスムーズに動作することを確認します。
- ステアリングアクスルロックナットが十分に締め付けられていることを確認します。
- ハンドルバーやフロントフォークに異常を感じたら、お買い求めの販売店、若しくはSYM 正規販売店に連絡を。



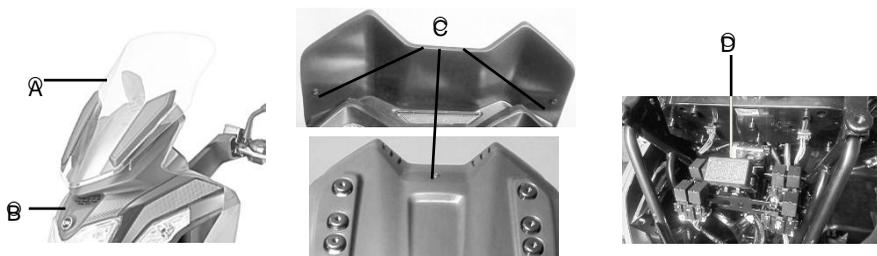


ヒューズの点検

ヒューズは、ウィンドスクリーン背後、多機能メーターのバイザー裏に、ヒューズボックス内に収められています ㉔。

多機能メーターのバイザーは、以下の手順で取り外します。

- ウィンドスクリーンを取り外します ㉑ (ページ 15 参照)。
- 3 本のスクルー ㉒ を外し、多機能メーターのバイザーを丁寧に持ち上げ、中にあるヒューズボックスを確認します。
- ヒューズボックス ㉓ を開き、ヒューズに断線などが無いか、点検してください。



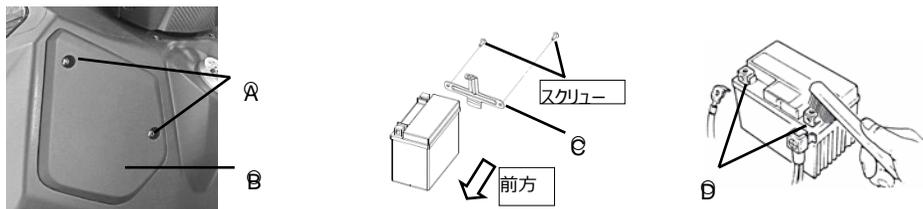
ヒューズが断線していた場合、適切なアンペアの新しいヒューズに交換してください。ヒューズ以外の伝導材などと交換しないこと。ヒューズの断線が繰り返される場合、車両をお買い求めの販売店、若しくは SYM 正規販売店に見せください。

バッテリーの点検

この車両には密封（シールド）タイプのバッテリーが搭載されています。したがって、電解液の液量を点検したり、蒸留水を加える必要はありません。バッテリーはバッテリー・コンパートメント ㉔ の内側に収納されています。

バッテリーを取り出すには、次の手順に従ってください。

- イグニッションスイッチを OFF にします。
- 2 本のスクルー ㉑ を外して、バッテリーコンパートメントのカバー ㉒ を取り外します。
- まず(-)端子に接続されているケーブルを外し、次に(+)端子を取り外します。
- バッテリーバンド ㉓ を取り外して、バッテリーを取り出します。
- ㉔ のように、重曹と水の溶液を使用して、端子部分をきれいに清掃します。
- バッテリーを取り付けるには、上記の手順の逆の順序で行います。

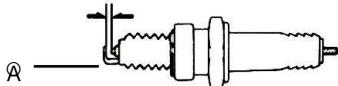




スパークプラグの点検

スパークプラグの点検は、お買い求めの販売店もしくはSYM正規販売店で行ってください。もし電極が摩耗していたり、堆積物等で汚れている場合、あるいは絶縁体が損傷している場合などは、新品に交換すること。スパークプラグギャップはワイヤータイプのシクネスゲージで行ってください。推奨ギャップは0.6~0.7、または0.8~0.9mm以内（車種による）です。調整が必要な場合、側方電極 ㉒ を慎重に曲げて行います。

- 推奨スパークプラグ: NGK CR8E(Joymax Z 250/300)、ギャップ:0.6~0.7mm
プラグギャップ NGK CR8EA-9 (Joymax Z 125)、ギャップ: 0.8~0.9 mm



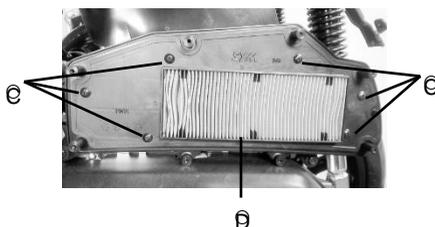
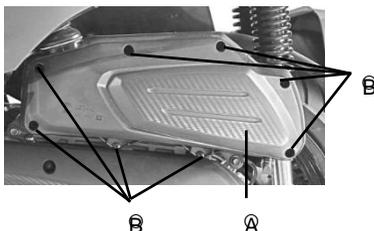
⚠ 警告【WARNING】:

- スパークプラグを点検する際は、エンジンの熱に注意してください。

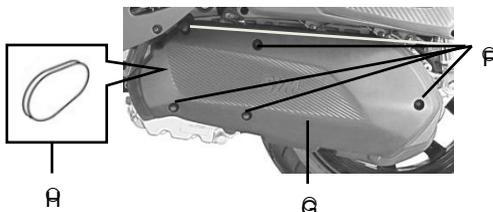
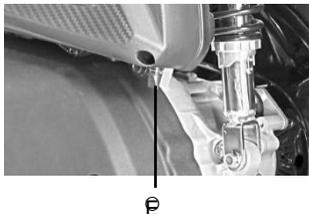
エアクリーナー /Vベルトエアクリーナーの点検

汚れたエアクリーナーエレメントは、エンジン性能を低下させ、燃費を悪化させる恐れがあります。エアクリーナーの点検は以下の手順で行ってください。

- スクルー ㉑ を外し、エアボックスカバー ㉒ を取り外します。
- スクルー ㉓ を外し、エアクリーナー・エレメントを取り出します。
- エアクリーナー・エレメント ㉔ が破損または汚損している場合は、お買い求めの販売店で交換してください。
- エレメントを取り付けるには、上記の手順の逆の順序で行います。



- エアボックスドレンホース ㉕ を取り外し、必要に応じてホースを洗浄します。
- 5本のスクルー ㉖ を取り外し、左クランクケースカバー ㉗ を取り外します。
- Vベルトエアクリーナーエレメント ㉘ が破損または汚損している場合、お買い求めの販売店で交換してください。



注記【NOTE】:

- Joymax Z 125 は、Vベルトエアクリーナーを装備していません。
- 点検中に、ほこりなどが吸入口から侵入しないよう十分にご注意ください。
- エンジンの性能を維持するためにも、SYM純正エアフィルタエレメントをご使用ください。



ヘッドライトの調整

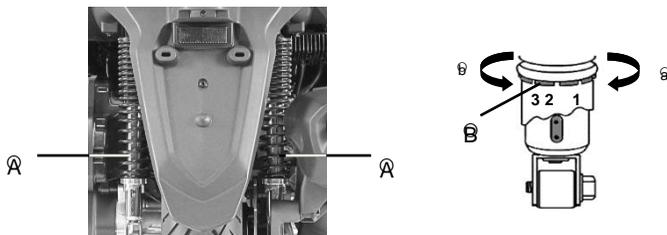
垂直方向のアジャスターは、フィリップスタイプ (⊕) のスクロードドライバーを使用 ㉔ します。
ヘッドライトの調整は、お買い求めの販売店、若しくはSYM 正規販売店で行ってください。



リアショックアブソーバーの調整

この車両には、2本のリア・ショックアブソーバー ㉕ が装備されています。それぞれ、4段階のスプリング・プリロード調整機能を有しています。出荷時は2の位置に設定されています。

- アジャスター ㉖ を時計回りに回し ㉗、プリロードを減らします（やわらかい動きにします）。
- プリロードをかける（硬くする）には、アジャスターを反時計回り ㉘ に回します。



調整については、お買い求めの販売店、若しくはSYM 正規販売店にお問い合わせください。

注記【NOTE】:

- 調整範囲を超えてアジャスターを動かさないこと。

車両全体の潤滑について

「定期メンテナンス表」(32ページ)に従って、または雨天下の走行後や厳しい湿度の中での長時間の使用などの場合には、以下に示す部品を、エンジンオイル、または一般的なグリースなどを用いて、適宜潤滑してください。潤滑前には必ず錆びの斑点などについてきれいに清掃し、また潤滑後は余分なオイルやグリースを拭き取ってください。

- サイドスタンド
- フロント/リアブレーキレバー
- スロットルケーブル



車両データレコーダー

この車両には、万が一の故障等の診断のために、またその原因の記録のために、車両の状態を記録するデータレコーダー機能を有する ECU が装備されています。保管されたデータは、メンテナンスまたは定期点検などの際に、SYM が指定する専用の故障診断ツールで吸い上げる必要があります。なお、SYM は、次の場合を除き、データを第三者に転送しません。

- 所有者またはユーザーが同意した場合。
- 法令に基づき定められている場合。
- 訴訟等への対応上必要と認められる場合。
- 研究開発の場合。なお、収容されているデータは、個々の ECU ユニット、あるいはその所有者の特定はしません。

10. スクーターの扱い方

洗車

洗車前に、エンジン、マフラー、ブレーキ、及びその他の高温になる部品を完全に冷ましてください。また、マフラーの排気口を覆い、かつイグニッションキー・スロットのシャッターを閉めておくことをお勧めします。

- 汚れを取り除くため、水道などからのホース（きれいな水）を用いて、冷たい水で車両をすすぎます。
- スクーターや自動車用に設計された中性洗剤をバケツに入れ、水と混ぜ合わせます。スポンジなど軟らかいものでスクーターを洗いましょう。
- 洗った後、清潔な水でスクーターを十分に洗い流し、残留物を取り除きます。
- 圧搾空気などを用いて水を吹き飛ばし、清潔な柔らかい布を使用してスクーターを乾かします。
- 慎重に低速で試運転しながら、何度かブレーキを使用して、ディスク板やパッドを乾燥させてください。

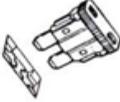
注記[NOTE]:

- ラジエーターを高圧洗車機などで洗淨しないでください。
- 特にマットカラーの部品が使用されている場合、扱いには十分注意してください。決してワックスなどをマットカラーの表面に使用しないこと。



11.トラブルシューティング

エンジンが始動しない場合の診断

(1)イグニッションキーは「ON」の位置に回しましたか？	(2)燃料タンクに十分な燃料がありますか？ 燃料ゲージが「E」の位置に来ていませんか？	(3)スタートボタンを押すときに後輪または前輪ブレーキを握っていますか？
		
(4)キルスイッチが○位置になっていますか？	(5)イグニッションキーを「ON」にし、ホーンボタンを押したときにホーンが鳴らない場合は、ヒューズが断線している可能性があります。	(6)ヒューズボックスを確認し、ヒューズが断線している場合、交換が必要です。
		

オーバーヒート

以下の現象が発生すると、エンジンがオーバーヒートしていると考えられます：

- 冷却水温度計の第 7 セクター（LED のすべて）が点灯している状態。
- 加速力が鈍化している状態。

オーバーヒートと判断したら、車両を道路わきの安全な場所に寄せ、以下の手順を実行しましょう。

- イグニッションキーを OFF にしてエンジンをいったん停止させます。10 秒ほど置いて、再び ON にしましょう。
- ラジエータファンの作動を確認し、イグニッションキーを再度 OFF にします。

ファンが作動していない場合は、エンジンを再始動させてはいけません。お買い求めの販売店、もしくは SYM 正規販売店に車両を搬送しましょう。ファンが作動している場合は、エンジンを冷却し、冷却システムのホース等を点検し、漏れがあるかどうかを点検します。もし漏れがある場合は、エンジンを始動させず、お買い求めの販売店、若しくは SYM 正規販売店に車両をお持ち込みください。

EFI 警告灯の点灯

EFI 警告灯が乗車中に点灯した場合、EFI システムに深刻なトラブルが発生している恐れがあります。できるだけ早くお買い求めの販売店、若しくは SYM 正規販売店にお問い合わせください。

ABS 警告灯の点灯 (Joymax Z 250/300 のみ)

ABS 警告灯が点灯した場合、ブレーキシステムに深刻な異常が発生している恐れがあります。

- 警告灯が走行中に点灯した場合
- イグニッションキーを ON にしても、警告灯が点灯しない場合
- 警告灯が時速 10 km を超えても、消灯されない場合

ブレーキシステムは、ABS 機能が損なわれても一般のブレーキとしては使用可能ですが、SYM としては、上記の症状のいずれかが発生した場合、お買い求めの販売店か、SYM 正規販売店で車両を点検するようお勧めします。



12. 定期メンテナンス

項目	メンテナンス間隔	1,000kmごとに	5,000kmごとに	10,000kmごとに	15,000kmごとに
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年
1	エアクリーナーエレメント*	I	C	R	
2	オイルフィルター(メッシュフィルター)	I	10,000kmごとに清掃する		
3	エンジンオイル	(1,000kmで初回、6,000kmで2回目、その後5,000kmごとに交換)			
4	タイヤ、空気圧	I	I		
5	バッテリー	I	I		
6	スパークプラグ	I	I		R
7	スロットルバルブのカーボン残留物の除去	I		I	
8	ステアリングベアリングとハンドル	I	I		
9	トランスミッションの漏れ点検	I	I		
10	クランクケースの漏れ点検	I	I		
11	トランスミッションオイル	(初回は1,000kmで交換。その後、10,000kmごとに交換)			
12	ブレーキ液	I	30,000kmごとに交換する		
13	ドライブベルト/ローラー/ドライブプーリー			C	R
14	燃料タンクチューブおよび燃料フィルター	I	I		
15	スロットルバルブ操作およびケーブル	I	I		
16	ボルトとナット	I	I		
17	カムチェーン	I		I	
18	バルブクリアランス	I		I	
19	ショックアブソーバー	I		I	
20	フロント/リアサスペンション	I		I	
21	メイン/サイドスタンド	I/L		I/L	
22	クランクケースブローバイシステム(PCV)	I	C		
23	クーラント	I	I		R
24	冷却ファン、チューブ	I	I		
25	クラッチ、クラッチアウター、ドリブンプーリー			C	
26	ブレーキ機構/ブレーキライニング(パッド) **	I	I		
27	ライト、スイッチ、電気システム	I	I		

コード : I~検査、清掃、調整 R~交換 C~清掃(必要に応じて交換) L~潤滑

*ほごりっぽい環境下では、エレメントは5000kmごとに交換してください。エレメントの洗浄には、圧縮空気を使用しないこと。

**ブレーキキャリパー及びマスターシリンダーの内部部品は、10,000kmごとに清掃、若しくは交換してください。

ブレーキ液は2年、もしくは30,000kmごとに交換してください。

ブレーキホースは4年、もしくは60,000kmごとに交換してください。

☆上記のメンテナンススケジュールは、走行距離または期間のいずれかに達した場合には行う必要があります

お使いの車両に関して、異常や問題が発生した際、あるいはご質問などがある場合には、メンテナンススケジュールにかかわらず、お買い求めの販売店、若しくはSYM正規販売店にご連絡ください。

☆お使いの車両を最高の状態に維持するためにも、定期的にお買い求めの販売店、若しくはSYM正規販売店で点検を受けるようにしてください。

☆頻繁に高速/長距離運転をおこなったり、ほごりっぽい環境下で使用するなど、特殊な使用条件下では、メンテナンススケジュールにかかわらず、必要に応じてより頻繁に車両を点検し、性能を維持しましょう。



13. 仕様/諸元

		Joymax Z 125 LW12W1-EU	Joymax Z 250 LW25W1-EU	Joymax Z 300 LW30W1-EU
フレーム	全長	2,190 mm		
	全幅	760 mm		
	全高	1,450 mm		
	軸距 (ホイールベース)	1,530 mm	1,546 mm	
	最低地上高	133 mm		
	キャスト	28°		
	トレール	140 mm		
	最小旋回半径	2.5m	2.6m	
	最大荷重	344 kg		
	装備重量	171kg	184kg	
	ラゲージスペース容量	48L		
	シート高	747 mm		
燃料タンク容量	12 L			
エンジン	型式	水冷、4 サイクル、SOHC、4バルブ、単気筒		
	圧縮比	11.3:1	10.5:1	
	排気量	124.9 cm ³	249.4 cm ³	278.3 cm ³
	ボア×ストローク	53mm×63mm	71mm×63mm	75mm×63mm
	最大出力	14.3PS@8500rpm	21.5PS@7500rpm	27.3PS@8000rpm
	最大トルク	1.2kg-m@5500rpm	2.35kg-m@5500p	2.8kg-m@5500rpm
	アイドルスピード	1,800 rpm	1,650 rpm	1,550 rpm
	始動方式	電子式セルフスターター		
	燃料供給システム	EFI(電子制御燃料噴射)		
	燃料	無鉛ガソリン、92(ROn)以上		
	点火システム	バッテリー & コイル		
	スパークプラグ	NGK CR8EA-9	NGK CR8E	
クーラント容量	1.4 L			
トランスミッション	クラッチ/トランスミッション	自動遠心式 / CVT		
	最終減速比	9.7	7.42	7.03
潤滑システム	エンジンオイル	SAE 10W30 または 10W40、API SG 以上		
	ギアオイル	SAE 85W140 API GL-4	SAE 10W30 または 10W40、API SG	
	潤滑システム	強制潤滑、ウェットサンプ		
	エンジンオイル容量(分解時)	1.0 L	1.4 L	
	エンジンオイル容量(交換時)	0.8 L	1.2 L	
	ギヤオイル容量(分解時)	110 cc	180 cc	
ギヤオイル容量(交換時)	100 cc	160 cc		



		Joymax Z 125 LW12W1-EU	Joymax Z 250 LW25W1-EU	Joymax Z 300 LW30W1-EU
ブレーキシステム	フロント/リアタイヤ	(F) 120/70-14 55P, (R) 140/60-13 63P		
	フロント/リアタイヤ空気圧	F : 2.0 kgf/cm ² (28 psi), R : 2.5 kgf/cm ² (35 psi)		
	フロント/リア リムサイズ	14×MT3.0 (F) 13×MT4.0 (R)		
	リム素材	アルミニウム合金		
	フロントブレーキディスク	260 mm		
	リアブレーキディスク	240 mm		
	フロントブレーキキャリパー	4 ピストン(CBS)	4 ピストン(ABS)	
	リアブレーキキャリパー	2 ピストン(CBS)	2 ピストン(ABS)	
	ブレーキフルード	DOT 3 または DOT 4		
サスペンションシステム	フロント	テレスコピック・フォーク		
	リア	デュアルショックアブソーバー		
電装品	ヘッドライト	60/55W H4×1		
	リア/ブレーキライト	LED		
	ターンシグナル (ウインカー)	12V 10W×4		
	バッテリー	MF,GTX9-BS,12V8Ah	MF,GT12A-BS, 12V10Ah	

※仕様・諸元は予告なく変更することがあります。

14. ラベルの貼付位置

製造者刻削プレート

SANYANG MOTOR CO., LTD.
L3e-A2
e13*168/2013*00035
RFGLNB704□SAXXXXX
81dB(A) - 3875mm³
20.1kW max 356kg

タイヤ空気圧ラベル

CAUTION	IMPORTANT
TIRE PRESSURE: FRONT:28PSI (2.0kgf/cm ²) REAR:35PSI (2.5kgf/cm ²)	PRESSION DES PNEUMATIQUES: AVANT:28PSI (2.0kgf/cm ²) ARRIERE:35PSI (2.5kgf/cm ²)
TIRE SIZE: FRONT:120/70-14 55P REAR:140/60-13 63P	DIMENSIONS DES PNEUMATIQUES: AVANT:120/70-14 55P ARRIERE:140/60-13 63P

製造者銘版

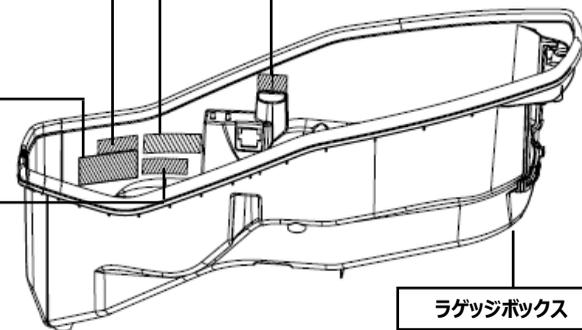
SYM
SANYANG Italia S.r.l.
Via Pavia 25,
20814 Varedo(MB),Italy.
Made in Taiwan

ラゲージボックスラベル

WARNING	ATTENTION
<input type="checkbox"/> MAX. LOAD IN TRUNK: 30kg <input type="checkbox"/> HEAT OF ENGINE WILL AFFECT THE TEMPERATURE INSIDE THE TRUNK. <input type="checkbox"/> FOR SAFE OPERATION, SEAT MUST LOCK. <input type="checkbox"/> VALVEBEL AND BREAKABLE, DO NOT PUT IN. <input type="checkbox"/> WATER MAY LEAK INTO TRUNK WHILE WASHING MOTORCYCLE.	<input type="checkbox"/> CHARGE MAX. DANS LE COFFRE A BAGAGES: 30kg <input type="checkbox"/> LA TEMPERATURE A L'INTERIEUR DU COFFRE A BAGAGES EST FONCTION DE LA TEMPERATURE DU MOTEUR. <input type="checkbox"/> LA SELLE DOIT ETRE VERROUILLEE POUR UNE CONDUITE EN TOUTE SECURITE. <input type="checkbox"/> NE PAS METTRE D'OBJETS FRAGILES OU DE VALEUR DANS LE COFFRE A BAGAGES. <input type="checkbox"/> LORS DU LAVAGE DU VEHICULE, DE L'EAU PEUT PENETREER DANS LE COFFRE A BAGAGES.

走行前注意喚起ラベル

REMEMBER	RAPPEL
<ul style="list-style-type: none"> ■ PRESERVE NATURE. ■ ALWAYS WEAR A HELMET. ■ RIDE SAFELY. ■ READ OWNER'S MANUAL CAREFULLY BEFORE RIDING. 	<ul style="list-style-type: none"> ■ PRESERVER LA NATURE. ■ TOUJOURS PORTER UN CASQUE. ■ CONDUITE AVEC PRUDENCE. ■ LIRE ATTENTIVEMENT LE MANUEL D'UTILISATEUR AVANT DE CONDUIRE.

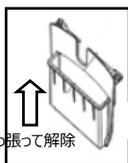


ラゲッジボックス

E5 代替燃料ラベル



燃料油キャップ



↑
引って解除



車台番号 (VIN)
RFGLNB604□SAXXXXX



左クランクケース

エンジン番号

ラゲッジボックス



保証約款

保証の発効

SYM の車両保証は、モータリスト合同会社と車両売買契約並びにアフター・サービス契約を締結した販売店（以下「SYM 取扱店」）が SYM 保証登録フォームへ必要事項を入力、送信後、有効となる。

保証期間

SYM の車両は、顧客が製品を購入しその製品の登録が完了した日から 12 か月間、本約款の規定に則り保証される。なお、本保証は新車を購入したオーナー（所有者）にのみ適用され、保証期間満了前に転売がおこなわれた場合には、保証の譲渡は認められない。

保証の内容

SYM の車両は、オーナーズマニュアルに記載された取扱要領に則った通常の取り扱いを行われて運用されていること、ならびに指定された定期点検を SYM 正規取扱店にて受検していることを条件として、生産上の欠陥、材質等に起因する不具合において、規定に従って修理または交換の実施を保証する。

保証修理の請求

保証修理のための移動、運搬は購入者の責任において、SYM 取扱店へ持ち込む必要がある。その際、登録書類、保証書、点検実施の確認のできる書類を持参する必要がある。

保証修理は SYM 取扱店の認められている作業場でのみ行うことができ、不具合の確認後直ちに行う必要がある。

保証の否認

保証修理適用の可否については、SYM 取扱店にて、購入車両と不具合を実際に診断した上で判断する。

使用者の遵守事項

道路運送車両法では日常点検と定期点検の実施が義務付けられている。定期交換部品、油脂類の交換は指定された頻度で行うこと。

ユーザーマニュアル記載の取扱い方法にしたがって適切に使用すること。

保証適用外の事項（以下の原因による故障または不具合は保証対象外）

通常の使用による摩耗、傷、自然劣化、自然退色

購入した製品を、取り扱いに関する指示書（ユーザーマニュアル、メンテナンススケジュールなど）に従わなかった場合購入した製品がサービスの提供を認可されていない作業場により整備された場合

SYM から使用が許可されていない部品が装備された場合購入した製品を SYM が許可しない方法で改造した場合

不注意または不適切な取扱いや誤用（競技等の目的で使用） 不適切な保管に起因した問題
機能や性能に影響のない感覚的な事象（音、振動、液体のしみなど） 転倒、追突、衝突などの事故に起因する不具合

天災および火災に起因する不具合

煤煙、降灰、酸性雨、オイル、薬品、鳥糞、塩害、飛石に起因する不具合

結露など、自然現象や環境条件に起因する不具合経年変化による劣化とみなされる症状
車両が盗難・放火・悪戯等により被った損害

SYM が指定した規格以外の燃料や油脂を使用したことに起因する不具合

異常を発見していたのにも関わらず放置、継続使用したことに起因、拡大した不具合

負担しない費用

消耗部品及び油脂類等（タイヤ・バッテリー・ブレーキパッド等を含む）

法令及び SYM が指定する点検整備、その他の点検、調整、清掃ならびに定期交換部品
車両を使用できなかったことによる損失（通信費、引き取り納車費用、交通費、宿泊費、休業補償、商業損失） SYM 純正品以外の部品

アクセサリやコンポーネントを車両に取り付け、接続したことによる動作の変化、純正部品の損傷、電気系の不具合、データ損失

保証期間内に確認された不具合にもかかわらず、保証期間終了後に報告した場合の修理費

その他

保証規定ののっとり取り外された部品はモータリスト合同会社の所有物となる。